



さとう ふみこ 佐藤 富美子 教授

～ がん看護学分野 ～

講義題目

がんサバイバーの QOL を促進する 看護ケアの探究

略 歴

1978年3月 慈恵看護専門学校卒業	1997年3月 日本赤十字看護大学大学院看護学研究科修士課程修了
1979年3月 神奈川県立看護教育大学校保健学科卒業	1997年4月 東京慈恵会医科大学医学部看護学科講師
1979年4月 東京慈恵会医科大学附属病院看護婦	1999年4月 福島県立医科大学講師
1984年4月 慈恵看護専門学校看護教員	2003年1月 山形大学医学部助教授
1985年3月 神奈川県立看護教育大学校看護教育学科卒業	2009年9月 東北大学大学院医学系研究科教授
1991年3月 国学院大学法学部卒業	2022年3月 退職

佐藤富美子教授は、創始者高木兼寛がナイチンゲール看護婦学校に範を得て 1885 年（明治 18）に看護教育を開始した、わが国最初の看護師教育機関である慈恵看護専門学校で基礎教育課程を終えました。

「病気を診ずして病人を診よ」、「医師と看護師は車の両輪のごとし」という理念のもとに受けた教育が、現在の看護教育研究の礎になっていると言えます。看護教育の大学化が急速に進められた 1997 年に東京慈恵会医科大学で大学教育を開始し、福島県立医科大学、山形大学を経て 2009 年に東北大学大学院医学系研究科保健学専攻教授に就任しました。この間、2006 年に乳がん術後患者のクオリティ・オブ・ライフ(QOL)に関する研究で看護学博士の学位を取得しています。学部教育では看護で重要な「当事者の視点に立つ」教育を実践し、大学院教育では 2011 年度よりがん看護専門看護師教育課程の認定を受け、東北地方のがん看護実践能力の向上に貢献すべく、がん看護専門看護師を 13 名(1 名候補生)育成・輩出してきました。

佐藤教授は「術後の生活を見据えてケアする」という言葉を心に刻み、約 20 年にわたり、700 名以上の乳がん体験者の協力を得て、がん患者および家族の QOL を高めるケア開発を目指す多角的な研究として乳がん手術患者の意思決定に関する調査、乳がん体験者の上肢機能障害と QOL に関する調査、乳がん体験者の術後上肢機能障害に対する主観的認知尺度の開発と評価方法の検討、乳がん術後上肢機能障害の予防改善に向けた教育プログラム効果の検証等に取り組んできました。2007 年に開始した乳がん体験者の上肢機能障害予防改善に向けた術後 5 年までの長期介入プログラムの効果に関する介入研究は、「乳がん体験者の生活の再構築を促進する包括的な長期リハビリケアプログラムの効果」に関する介入研究に発展し、2020 年 SGH 看護特別賞を受賞しました。2019 年 12 月までに 140 名の登録を得て、術後 3 年までの長期フォローアップの介入と調査を継続しています。この長期ケアの効果が検証されれば、周術期に医療者が介入する必要性がさらに認識され、乳がん体験者の QOL 向上が期待されます。乳がん看護以外の研究活動としては、「がん免疫療法看護の質評価指標開発に向けた探索的研究」や、東北大学

ケアサイエンス共創センタープロジェクトの「臨床看護師のResearch Mindを育む教育プログラムの検討」に着手しています。

社会貢献活動として、日本がん看護学会、日本看護科学学会、日本クリティカルケア看護学会などで評議員、編集委員、専任査読員を担い、また、がん看護講演会、勉強会を定期開催し、がん看護学及びがん看護実践の質向上に貢献されました。